資源環境経済学特別演習Ⅱ　議事録
２０１５年度　第２回

報告題名(title)：	**日本企業のインド進出について**		
報告者(name)	**尾崎　寛幸**	**日時**	**7月16日　午後3時～**
所属分野(labo)	**国際開発学分野**	**場所**	**第2講義室**
座長	**金 鑫**	**議事録担当者**	**佐藤　忍**

出席者

米倉、冬木、高篠、石井、ユニクロス、西田、金、青木、黒岩、秀、Tian、佐藤忍、石塚、尾崎、チリゲル、ソリゴガ、唐、吉田、趙、李

報告要旨(Abstract)

インド国内市場が拡大を続け、中国に続く「世界の市場」へと変貌しようとしている。ＧＤＰ成長率は２０１１年に落ち込みを見せてから再び上昇傾向にある。また、インド政府も緩和施策で産業を刺激しようとしている。国連の世界人口予測の中位推計では、インドの人口は２０５０年までに３．５億人の増加が見込まれている。人口が増加していく中で、増加する労働者の受け入れ先としてそれぞれの産業が発展することが現在のインドの課題となっている。一方、親日の文化があり、近年ではデリー・ムンバイ産業回廊（DMIC）に日本政府が取り組んでいる中、海外進出を目指す日本企業のための、インド進出への基盤整備は進んでいる。今回の報告においては、海外進出を目指す日本企業の進出先としてインドが有望であること、及び受け入れ側であるインドが産業発展という課題を抱えていることについて報告する。

質疑・応答(Ｑ＆Ａ)

石塚：評価対象企業の産業分野はある程度絞っているのか。インフラやＩＴ等いろいろあると思うが。

尾崎：絞っていない。製造業が多いという話でそこが中心になると思うが、実際にインターンする会社の話ではいろんな業種で日本企業と関われるようなので、見てから決めようと思っている。

石塚：ということは絞るかもしれないし、分野ごとに比較をするかもしれない。

尾崎：絞ったらそんなにサンプルを集められるのかという不安はある。

高篠：農学との関連性は。

尾崎：国際開発ということでいいのかと。

米倉：あまり関連性がないからもうちょっと理由があった方が良い。

高篠：農学と関連している企業はあるか。

尾崎：あまり聞かない。

米倉：言葉の使い方が気になっている。日本企業のインド進出というテーマで研究に来ました、とインド人に説明する際、英語でどう伝えるのか。進出という言葉の意味合いは、日本語的にはどういうニュアンスなのか。インド人がそういう言葉を聞いたらどう思うだろうか。こういったニュアンスが思考に影響を与えるような言葉の使い方は、論文のタイトル、研究のテーマとして考える時にはもっと慎重にやってほしい。日本企業のインドにおける直接投資について、と言えばいいのではないか。言葉の使い方によっては厄介な問題が生じる。相手は日本人ではない。

尾崎：ありがとうございます。

米倉：もうひとつ、なぜＰｗＣがこんな報告書を出しているのか。ＰｗＣはインドで何をやっているのか。ＰｗＣの動き自体が面白いのだが。

尾崎：この報告書自体は慶応の研究者と一緒に作っていて、アカデミックな意味合いで作ったものかと。

米倉：そんなことはないだろう。ビジネスに直結した話だと思う。私の質問の意味がどうだったのかということも含めて、研究してみてほしい。

石井：参考文献について、間接投資については中国や東南アジアなどで歴史があるが、そういった中から文献等は拾ってこられないか。現地人材の育成やキャリアパスの制度等が分析対象としてあるが、こういった分析課題について、インドでなくとも日本の直接投資なり、そういった文献はあがらなかったか。

尾崎：今までの先行研究では、どちらかというと会社内部の人材育成の話より、進出するときの日本企業の戦略やサプライチェーンを現地でどう作っていくか等を外国の企業と比較する、という研究が多い。

米倉：日本企業のことを調べても面白くないのではないか。日本の企業が直接投資をどうやろうかという話だが、インドである必要はないのではないか。インドに行ってこんなことを調べたら面白いのでは、と思うのは、インドの企業経営は歴史があって、インドの財閥もいくつかあって、特に有名なのがタタグループという総合産業グループの大財閥で。そういう大企業や大財閥があって、そういうところでどういうマネジメントが行なわれているか、の方がよほど面白いと思う。タタは今イギリスの会社等を買い取っていて、どうやってそのマネジメントをやっているか等、そういった方がずっと面白そうに感じる。問題の立て方からして、現地に行ったところでＰｗＣのレポートを追認するようなことにしかならないと思うが。行くのであればもっとインドの会社を調べてみればどうか。日本では考えられないような企業もあるわけで、少し踏み込んだ方が面白いと思う。どうやってマネジメントしているか。

尾崎：インド国内のマネジメントのことか。
米倉：会社として、組織としてどうマネジメントしているかということ。例えばタタは自ら自動車産業を持っていて、スズキの方がマーケットは大きいが、タタも戦ってやろうと虎視眈々と狙っている。そういう受けて立つ側の戦略も面白いと思う。タタは昔からトラックは大きなシェアを持っているが、最近はイギリスの有名なジャガー等のメーカーに抜かれた。企業としての実力はすごい。そういったことをもっと正面に据えてやってみた方が面白いのではないか。
尾崎：とても参考になった。